

## 日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION  
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

## 目次

- 理事長から(2) / 理事会 .....1
- 新年賀詞交歓会 / 今後の行事予定 .....2
- 国立国会図書館見学・報告 .....3
- 委員会報告 .....4
- 新連載・楽譜のオハナシ .....5

## 理事長から(2)

当年度第3四半期(10月~12月)の協会活動について報告いたします。

協会の事業年度は4月から始まりますが、実質的な活動は年次総会終了後の6月以降となります。10月に入り各委員会の活動もようやく軌道に乗って参りました。

2009年9月3日、12月4日に理事会を開催し、各委員会から提出された案件について承認と討議を行いました。

当第3四半期中の大きなイベントは、9月25日に大阪第一ホテルで開催しました出版社商品説明会、及び懇親パーティーです。開催地区の会員他多数の方にご参加頂き、来期も継続し開催することを囑望されております。

会報・ダイレクター・HP委員会では、会報の発行を今年度から年6回に変更し、理事会報告、委員会活動等を具体的に掲載し、編集にも工夫を凝らした結果、以前に比べ内容も充実してきたとの評価を得ています。また、通巻500号記念号では、多くの会員各社よりお祝い広告を戴きましたことをこの紙面を借りて御礼申し上げます。ホームページの運営につきましては会員向けページと、ニュース欄の充実を図って参りました。また、会報の創刊号から500号までを電子化(PDF)し公開しております。この機会に当協会の歴史を是非ご覧頂きたいと思っております。

リクリエーション委員会ではボーリング大会を8月11日と11月17日に開催し、多くの若者に参加頂き懇親を深めることができました。次回は3月に開催する予定です。

10月14日から18日に開催されたフランクフルト・ブックフェアに私も参加して参りましたが、会場で一部のJAIP会員の協力を得まして「JAIPダイレクター2009」を100部程関係者に配布し、JAIPの活動をPRして参りました。

当期は未曾有の不況と円高により売値の低下、特に書籍、雑誌ビジネスに甚大な影響をもたらしています。今後の景況見通しは、昨年9月に発足した民主党鳩山政権の手腕にかかっているといっても過言ではありません。何れにしても厳しい経済環境が続くことが予想されます。

1月以降の第4四半期(1月~3月)は年度末に向かい各社多忙を極められるかと存じます。会員各社及び皆様方におかれましては、この困難な時期を無事乗り切られますことを心から祈念しております。

\*文中4半期の区切りと活動内容が一部交錯しておりますが、前回の報告とのタイムラグを考慮して頂けますようお願いいたします。

## 理事会

日時：2009年12月4日(金)

## 1. 会計報告

事務局より11月までの推移の報告があり、順調の推移している旨確認した。

## 2. 総会準備

開催日：2010年5月21日(金)

場 所：国際文化会館

内 容：

理事会：15：00～

総 会：16：30～

懇親会：18：00～

上記日程で行う事とし、会報等で発表する。

## 3. セミナー・懇親会

・国会図書館見学会(12月18日)すでに定員に達している。

・新年賀詞交歓会(1月8日、プレスクラブ)次週、事務局より案内を出す。またOBの参加も歓迎するので、各社で対応して貰う。会場で会報のバックナンバーのディスプレイをおこなったらどうかと理事長から提案があり、ユサコで対処することとした。

## 4. 理事長から

4半期毎の「理事長メッセージ」をHPと会報に出稿する。

## 5. その他

仲理事から新入社員の集いの様な集まりを開いたらどうかと提案があり、検討する事とした。

# 新年賀詞交歓会

今年の新年賀詞交換会は1月8日（金）に昨年同様プレスクラブにて47社124が参加して盛大に行われました。今回は理事会のご提案で協会OBの方々（9名）にもご参加いただきより一層楽しい懐かしいパーティーとなりました。

司会の開会宣言のあと新年のご挨拶を協会理事長ユサコ 山川氏よりいただきました。

同時に山川氏より各理事の方々のご紹介もいただき、かつ各委員会の内容などの説明もあって協会の活動方針など理解できたのではないかと思います。続いて乾杯のご発声を協会理事 UPS マーク・グレンシャム氏にいつものように英語でいただきパーティーが始まりました。会場内ではHPで閲覧できる協会会報のバックナンバーをみることができ、昔の協会の様子など楽しみながら皆さん会話にお酒に料理にと時間は過ぎて行きました。

中ほどにお年玉として特別抽選会を行い ユサコ様からのご提供のN響のペアチケットが1名様に また今年は寅年ということで阪急阪神エクスプレス様より阪神・巨人戦のペアチケットが2名様に当たりまし



た。あらためてご提供ありがとうございました。また当たった方おめでとうございます。楽しい時間はあっという間に過ぎ中締めのご挨拶を丸善 社長 小城氏よりいただき 関東1本締めにて閉会となりました。今年も多数の方々にご参加いただき、また大変貴重なスピーチをいただきありがとうございました。今年も皆様にとって素晴らしい一年であることを願っております。（R・T記）

## 今後の行事予定

	内 容	開催地
2010年2月17日	第58回麻雀大会	シルク（高田馬場）
2010年3月17日	第8回ボウリング大会	ロサボウル（池袋）
2010年3月20日	第135回72会ゴルフコンペ	龍ヶ崎 CC
2010年5月21日	総会・懇親会	国際文化会館
2010年6月	第59回麻雀大会	シルク（高田馬場）
2010年7月	サマーパーティー	国際文化会館
2010年8月	第9回ボウリング大会	ロサボウル（池袋）
2010年9月	関西懇親パーティー	大阪
2010年11月	第10回ボウリング大会	ロサボウル（池袋）
2010年12月	第136回72会ゴルフコンペ	高根 CC
2011年1月7日	2011年賀詞交歓会	プレスクラブ
2011年2月	第60回麻雀大会	シルク（高田馬場）
2011年3月	第8回ボウリング大会	ロサボウル（池袋）
2011年3月	第137回72会ゴルフコンペ	龍ヶ崎 CC

会場等変更になる場合がございます。詳細決まり次第ご案内いたします。

また協会サイト・会員ページにも掲載致しますので併せてご利用下さい。（レクリエーション委員会）

# 国立国会図書館 見学・報告

日・時：2009年12月18日〈金〉 14：30～16：30

参加者：日本洋書協会10社14名（1名欠席）

オックスフォード大学出版局、海外新聞普及、教文館、ゲーテ書房、東亜ブック、マテマティカ、マイブックサービス、ビューローホソヤ、UPS、雄松堂書店

配布資料：「国立国会図書館東京本館利用案内」、「国立国会図書館案内」

見学会ご担当：国立国会図書館資料提供部利用者サービス企画課総括係 芹澤様

## 見学内容：

### 1：国立国会図書館紹介DVDを約20分視聴。

国立国会図書館設（昭和23年）の目的、沿革、組織、設備、制度およびその機能について説明。帝国図書館の蔵書を基盤として、現在は、国立国会図書館（本館および新館）、国立国会図書館関西館、国際子ども図書館の3館に分かれている。図書館の機能としては、納品制度を通じた国内資料の網羅的な収集、貴重資料の保存、「日本全国書誌」などの目録・書誌の作成、国内図書館とのさまざまな相互協力があり、さらに特徴的な機能として国会議員に対する立法調査サービスを行っている。蔵書数2,200万冊。本年度から2年計画で遠隔地利用型の利用を前提にデジタル化が本格的にスタートした。

### 2：館内見学コーナー閲覧・資料スペースおよび新館書庫内の見学

東京本館の利用スペースは、本館と新館に分かれて、本館では図書、新館では和書の貸し出しを行っている。人文総合情報室、科学技術・経済情報室、古典籍資料室など専門的な分野に応じて司書を配して利用者からの質問資料に対応している。

利用者（満18歳以上の人）は館内利用カードを作成し、パソコン端末から資料を検索して請求する。30分ほどで資料がカウンターに届き、モニターにカード番号が表示されたら資料を受け取ることができる。資料は館内閲覧のみとなっていて、複写サービスもある。著作権法に遵守しているため資料全体の1/2以上の複写をすることはかたく禁じられている。

新館書架は地下8階まで雑誌資料を収蔵。それが資料と判断されれば、漫画雑誌なども内容にかかわらず収蔵対象にしている。資料保存の観点から著作権の切れた貴重雑誌などはマイクロ化、デジタル化の作業を順次すすめている。洋書などはオンライン・ジャーナルになっているものはパソコン端末を通じて閲覧も可能になっている。

### 3：質問と感想。

洋書の受入に関することに質問は集中した。国立国会図書館は和書については納品制度を通じて網羅的に収集しているが、洋書については日本関係の資料などを選書して購入している。他国の国会図書館との交換制度もあるがそれは基本的には政府刊行物などになる。

### ①大部分の図書が開架である。

国会図書館では蔵書の大部分が開架式である。NDL-OPACを通じて申請をして、カウンターから書籍を受け取ってから館内閲覧となる。これは国会図書館が資料の保存を重要な役割としている点と、さらに雑誌書架が八階分、図書書架が十七層にもなる巨大な図書館が開架をしまうと、どうしても資料の切り取りや盗難などの危険性がある。実際に書架を見学させてもらうことで感じ取ることができた。さらに、国会図書館には他の公立図書館では所蔵していないような、コミック等も保管していることを考慮すると止むを得ないと思った。

### ②国会図書館の資料保存

国会図書館の重要な仕事のひとつが、雑誌を収集しかつそのマイクロ化を推し進めることで資料の保存と活用をすすめている。さらに近年ではデジタル化などのメディア変換が行われている。これにより国会図書館ウェブサイトからの電子図書館から、より多くの人々に国会図書館の資料を閲覧することができる機会を生み出している。資料のメディア変換が単に資料の保存だけではなくさらに、資料の新しい活用に向けて行われている。この意味で資料とそのメディア変換技術は今後もさらなる重要性を担っていると考えられる。

### ③国会図書館における洋書

残念ながら、今回の見学では洋書の書架を見学することができず、国会図書館の洋書を巡る状況についてはあまり多くを知ることができなかった。和書が納本制度を通じて国内出版物を網羅的に収集するのに比べて洋書は基本的には司書が選書して購入しているため、その収集には和書のような網羅性はない。日本関係およびアジア関係の資料などを重点的に集めている他、政府関係資料を各国国会図書館との交換を通じて入手するなどの活動を行っている。つまり洋書については他の図書館と同じく、選書をおこなう司書の方にどれだけアピールできるかといった人間関係が重要になってくる。

以上。

次回の図書館見学は、5月か6月に私立大学の図書館見学を予定している。

（文化・教育担当 仲 光男）



新館の地下8階で、参加者全員で記念撮影

## 第7回 ボウリング大会

2009年11月17日(火)

会場：東京ドームボウリングセンター

参加者：16名(8社) 男性13名 女性3名

競技：3Gのトータルピン(女性は20ピン/ゲームのハンディキャップあり)

上位の成績は下記の通り

順位	氏名(社名)	総得点	1G	2G	3G
優勝	寺尾雅人(日本出版貿易)	457	154	159	144
準優勝	戸島健太郎(東京ブックランド)	451	148	135	168
3位	山中玄致(ユサコ)	446	133	156	157
3位	高橋直樹(東京ブックランド)	446	131	170	145
5位	山田真一郎(ワタナベ流通)	418	140	160	118
6位	平野覚(ユサコ)	411	129	167	115
7位	マーク・グレスシャム(UPS)	407	104	164	139
8位	植原英男(日本出版貿易)	383	115	143	125
9位	箕輪伯夫(雄松堂書店)	379	156	104	119
10位	柿沼大輔(ユサコ)	377	120	97	160
ハイスコアー男性/G	高橋直樹	170			
ハイスコアー女性/G	小向奈保子	135			



【優勝者のコメント】参加された皆様お疲れ様でした。毎回楽しく参加させていただいております。前回の同大会では2ピン差で惜しくも優勝を逃したこともあり、今回は是非優勝したいと密かに意気込んで参加しましたが、その甲斐もあったのか幸運にも恵まれ優勝することができました。次回も連続優勝を狙って頑張ります。

\*当日の写真は <http://www.jaip.jp/jp/info/club/Bowling200911.html> でご覧頂けます。

次回は2010年3月に開催予定です。

## 第134回 72会ゴルフコンペ

2009年12月12日(土) 晴れ

会場：高根カントリークラブ(埼玉県)

参加者：16名4組 参加社数(11社)

競技：18ホール ストロークプレー 新ペリアによる

<成績表>

	グロス	ハンデ	ネット
優勝 山川隆司(ユサコ)	95	21.6	73.4
2位 西山幸児(西山洋書)	88	14.4	73.6
3位 鈴木 徹(Kライン)	99	25.2	73.8
4位 西山久吉(西山洋書)	99	24.0	75.0
5位 木原健策(東京洋書)	91	14.4	76.0
6位 柳 忠士(ワタナベ流通)	108	31.2	76.8
6位 楠本 忍(東京ブックランド)	84	7.2	76.8

バスグロ：楠本 忍(東京ブックランド) 84

ドラコン：西山幸児(西山洋書) × 2

ニアピン：唐沢元憲(ゲーテ書房)・鈴木 徹(Kライン)



# 西欧の音楽と日本人

アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧

初めてキリスト教の宣教師として鹿児島港から上陸したザビエルは布教の活動をする為に領主の島津貴久公に謁見して、布教の許可を得て鹿児島で活動を始めた、その中で有能な人材を見つけることができたようです、しかし彼の目的は日本という国に布教を目指していたのだと思います、彼は島津貴久公の推薦を得て1550年(天文十九年)秋末に京を目指しました。その途中に、平戸で布教をして、平戸の信徒の面倒を見るために随行してきた神父の1人を残して、他の随行者と共に平戸を離れ上洛の旅を続け、その途中で周防の山口を経て京に入ることが出来た1550年(天文十九年)十二月のことでした。しかし、その頃の京都は応仁の乱後の混乱が続き足利幕府の権威も地に落ちて乱れにみだれていたでしょう、ザビエルは天皇に拝謁して日本国内での布教活動の許可を得る目的を果たすことも出来ず早々に京を去って1551年(天文二十年三月)に平戸に戻り四月にはふたたび山口へ向かい時の領主、大内義隆に拝謁し数々の西欧の品物を献上した、その中に西洋の楽器が含まれていました、その楽器についての記述は、大内義隆記によれば「十三の琴の糸ひかざるに五調子十二調子を吟ずる」楽器クラヴォ(cravo)と書かれていますが、この楽器についてはハーディーガーディーではないかと思われませんが確証はありません。この時に大内義隆はザビエルにキリスト教布教の許可を与えました、宣教の許しを得たザビエルは山口で布教活動を開始した、この時期ザビエルは優遇され住居も用意してもらったようでした。その年の9月19日豊後の大友義鎮に招かれ府内(大分)に船で入った。その時の様子を伝えるものに、上陸するのに本船から三艘の小船を出し、シャルメラとフラウタの音楽を演奏しながら入り街を行進したと伝えられています。そしてザビエルはパーデレ(神父)を残して11月には日本を離れインドに向かい翌1552年12月3日に亡くなりました。ザビエルが来日する際に同行した修道士達を平戸、山口、府内などに残り熱心に布教活動を行い多くの人たちが入信しそれは一般民衆だけでなく多くの大名も入信しています。熱心に布教活動の成果として多くの日本人が入信しましたが、当初のお祈りミサでは外国人の宣教師が歌うのを信徒は聴いていただけだと思います。

その後布教の広がりと共に信徒たちの祈りも簡単な式

の文だけを唱えるミサから歌を加えた歌ミサに変化していき、聖歌隊も組織され、いろいろな儀式にもすべて合唱で行われ時には楽器の伴奏も加わるようになって、教会は音楽に満ち溢れていったのでしょう。そして公式に初めて西洋音楽を聴いた記録が次のように残っています。豊後の領主大友義鎮(後の宗麟)とその子息が府内のキリスト教布教所の招きに応じて訪れ、その宴の席でヴィオラ・ダルコ viola d'arco の演奏がおこなわれ喝采を得たと「1562年10月25日(永禄五年九月二十八日)付けで耶蘇会に報告されています」。一般的に西洋楽器の演奏を聴いたことについては1581年(天正九年)に織田信長が安土の住院(レジデンシア・布教所)を訪問した際にセミナリオに備え付けてある楽器を演奏させそれを聴いたのが初めてだとされ、その次に挙げられるのが1591年(天正十九年)に秀吉が聚楽第で帰国した天正遣欧(少年)使節団のメンバーに楽器を演奏させ、大変な気に入らうで、三度もアンコールを所望している、此の時の関白が二人目に聴いた人物とされていますが事実は織田信長より20年も前に大友義鎮が聴いていたのです、一般民衆はそれよりもっと以前から聴いていたでしょう。しかし、正確な楽器、演奏者、曲名は記録としてはこの世から抹消されてしまっていますが…。話が元に戻ります。

ザビエルの来日後多くのキリスト教宣教師が、貿易関係者が来日しています、その際に聖書、書籍、音楽関係の理論書楽譜が時計やその外の品物とあわせて渡来(輸入)しているはずですが、というのも平戸、山口、府内、臼杵等の布教所、教会で数多くミサが挙げられ、またオルガンも輸入されて演奏されていました。宗教劇も演奏され、聖歌隊も組織されたということ、教会を中心としてセミナリオ(小神学校)コレジョ(学院)(大新学校)が開設されて学術一般、数学、医学、音楽、語学、読み書きの教授、キリスト教の教義、教育が盛んにおこなわれ優秀な卒業生を送り出したようです。このように発展をすることが出来たのは多くの民衆が入信したことと、その地の領主、大名が入信しキリスト教を庇護したことも影響しているのではないのでしょうか。これらの基礎の上に1582年(天正十年9)の少年使節団の欧州派遣となり日本の印刷・出版に繋がっていきます。

CAMBRIDGE

好評発売中!

## 随意筋障害 第8版

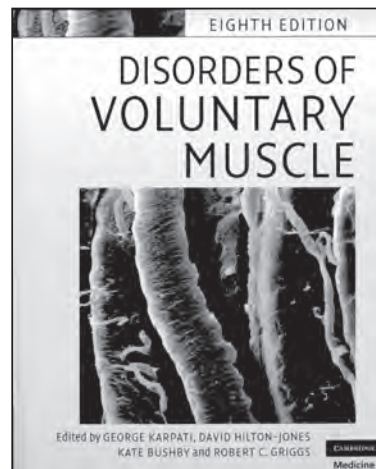
「ウォルトン随意筋障害」として1964年以来版を重ねてきた定番タイトルの最新版で、2001年の第7版から9年ぶりの改訂です。随意筋障害の最新の研究成果、分子生物学などの関連分野の動向などを踏まえています。この機会に是非座右にお備えください。

### Disorders of Voluntary Muscle. 8th Edition

Edited by George Karpati (Montreal Neurological Institute), David Hilton-Jones (John Radcliffe Hospital), Kate Bushby (International Centre for Life, Newcastle upon Tyne) and Robert C. Griggs (University of Rochester School of Medicine and Dentistry, Rochester, NY)

2010 520 pages Hardback 978-0-521-87629-2 ¥30,135.- (本体 ¥28,700.-)

This major new edition fulfils the need for a single-volume, up-to-date information resource on the etiology, pathogenesis, diagnosis and treatment of diseases of skeletal muscles, including the muscular dystrophies, mitochondrial myopathies, metabolic myopathies, ion channel disorders, and dysimmune myopathies. As background to the clinical coverage, relevant information on advances in molecular and developmental biology, immunopathology, mitochondrial biology, ion-channel dynamics, cell membrane and signal transduction science, and imaging technology is summarized. Combining essential new knowledge with the fundamentals of history-taking and clinical examination, this extensively illustrated book will continue to be the mainstay for practising physicians and biomedical scientists concerned with muscle disease. Regular updates on the clinical and basic science aspects of muscle disease - written mainly by rising stars of myology - will be published on an accompanying website.



UFS MEDICAL

United Publishers Services Limited

1-32-5 Higashi-shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002 - Tel: 03-5479-7251 / FAX: 03-5479-7307

日本洋書協会会報 vol.44 No.2(通算 503号) 発行日 2010年2月1日 編集者 正田 実

発行所 日本洋書協会 〒140-0002 東京都品川区東品川1-32-5 U.P.S.内 TEL 03-5479-7269 FAX 03-5479-7307

URL: <http://www.jaip.jp> E-mail: [office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)